

「持続可能な社会の実現」を目指して学び続ける生徒の育成
～SDGs 達成を目指す ESD の視点を取り入れた英語科の単元デザインを通して～

南風原町立南風原中学校教諭 前 大 え り

I テーマ設定の理由

いま世界では地球規模の環境変化や災害など、様々な問題が人間社会と地球環境を持続不可能なものへと変えつつあると言われている。こうした社会の在り方そのものが大きく変わる中、これからの教育や社会生活において従来の価値観や生活様式を転換していくことが求められている。そこで、2015年国連において「持続可能な開発目標」(以下、「SDGs」)が採択され、すべての国がその実現に向け共通して取り組みを行っている。さらに、SDGs 達成を実現するためには「持続可能な開発のための教育」(以下、「ESD」)がその一つの方策として重要な役割を果たすと言われ、これからの社会を生きていく生徒にとって、直面する課題を自分ごととして捉え、その課題の解決に向けて自分には何ができるのかを考え、行動する資質・能力を育成することが必要不可欠である。

小・中学学習指導要領では、前文及び総則に、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、各教科等においても、関連する内容が盛り込まれた。さらに総則において、「現代的な諸課題に対して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくこと」と述べられており、各教科等の学びを横断的に関連付けたカリキュラム・マネジメントが求められている。

本校は今年度、本県の ESD 研究指定校である。これまで学校の取り組みとして、総合的な学習の時間を軸に各教科や生徒会活動において、SDGs を意識したさまざまな活動を展開してきた。成果として、生徒の SDGs に関する興味・関心は深まってきた。一方で、生徒自身がこれまで身に付けた学びを生かして、よりよい社会の実現に向けた具体的な行動変容にまで結び付いていないように感じる。また、校内での推進の在り方、具体的に ESD で生徒にどのような資質・能力を身につけさせる必要があり、各教科の学習においてどのように効果的に進めていくべきかについては、課題がある。

これからの時代に求められる「持続可能な社会の創り手」を育むためには、学校教育における諸活動を「SDGs 達成を目指す ESD (ESD for SDGs) の視点」で捉え直して、カリキュラムを再構築していくことが重要であると考え。また、各教科の学習を進めるに当たり、ESD で育成を目指す資質・能力を育むための単元構成及び授業構成の在り方について研究を深めたいと考えた。

そこで本研究では、英語科の学習活動において、「SDGs 達成を目指す ESD の視点」を取り入れた単元をデザインし、実践するとともに、ESD を組織的・計画的に取り入れるためにはどのような手立てが必要であるか研究していく。そして、本研究の成果を学校の教育活動全体で展開する際のモデルと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

- 1 生徒が SDGs 達成に向けて主体的に学んでいく手立てとしての ESD を学校で推進するための研究を深める
- 2 ESD for SDGs の視点を取り入れた学習指導を促進するために効果的な単元モデルの提案

III 研究の方法

- 1 ESD の教育的意義を探る理論研究と年間実践計画表の提案

IV 研究の内容

1 「学び続ける生徒」の素地を養う ESD

(1) SDGs 達成の基盤となる ESD

ESD とは Education for Sustainable Development の略で、持続可能な社会を創造し続けるための、価値観や行動を生み出す学習や活動を行う教育のことである。2017 年の国連総会決議では、「質の高い教育に関する持続可能な開発目標に不可欠な要素であり、その他全ての持続可能な開発目標の鍵」であることが確認されている。つまり、ESD は、図 1 に示すように、持続可能な社会の担い手づくりを通して 17 すべての目標の達成に貢献するものである。そして、学校教育においては、児童生徒の課題解決に必要な資質・能力を育成し、主体的な学びや行動変容を引き出す教育への改革の足がかりとなるものとして重要視されている。

これらの ESD の動きに相応し、改訂された学習指導要領の前文や総則には「持続可能な社会の創り手の育成」を念頭に置いた表現となっており、中学、高校とも各教科・領域において ESD に関連する内容や記述が数多く盛り込まれている。したがって、ESD を推進することは、学習指導要領の理念の実現に迫ることになり、学校の教育課程全体で取り組むべきものと位置づけられる。

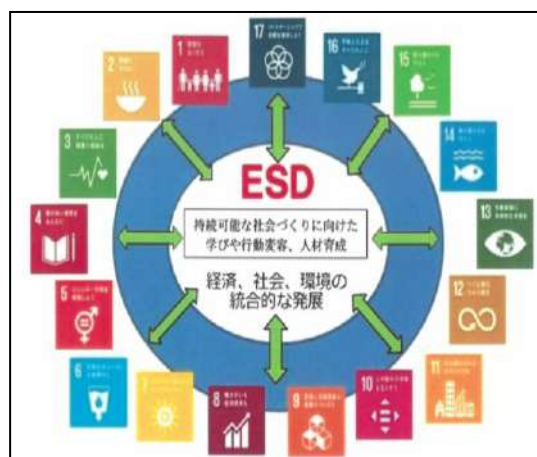


図 1 SDGs 全てのゴールに寄与する ESD

(2) ESD で育成したい資質・能力の明確化

国立教育政策研究所（以下、「国研」）の「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕」の中で、ESD の視点に立った学習指導の目標を「持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、それらを解決するために必要な能力・態度を身に付ける」と示している。こうした考えに基づき、ESD の視点に立った学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組みとして提案したものが、『ESD の視点に立って重視する能力・態度』である(資料 1)。

ESD を各教科等の学習活動において推進する上で、単元の目標や授業の目標に、これらの育成をねらいながら授業計画を行うことが、生徒に持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うことに繋がると考える。そこで本研究においても、単元内容に応じて ESD で重視する能力や態度の中から特に伸ばしたい力を選び、それらを意識した授業計画を行う。

ESD の視点に立った学習指導の目標	
教科等の学習活動を進める中で、 「持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付ける」 ことを通して、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う。	
能力 (思考・判断・表現力)	態度 (学びに向かう力・人間性)
①批判的に考える力 合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協動的、代替的に施行・判断する力 批判	⑤他者と協力する態度 他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度 協力
②未来を予測して計画を立てる力 過去や現在に基づき、あるべき未来像(ビジョン)を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力 未来	⑥つながりを尊重する態度 人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度 関連
③多面的、総合的に考える力 人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり(システム)を理解し、それらを多面的、総合的に考える力 多面	⑦進んで参加する態度 集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、ものごと主体的に参加しようとする態度 参加
④コミュニケーションを行う力 自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力 伝達	

資料 1 ESD の視点に立った学習指導の目標と重視する能力・態度 (国立教育政策研究所作を参考に作成)

(3) ESD で育む「学び続ける生徒」とは

変化を見通せない時代において、持続可能な社会を自ら創造することができる資質・能力を身に付けていくには、生徒たちの学びが「主体的・対話的で深い学び」となることが重要とされる。学習指導要領総則(以下、「総則」)には、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の配慮事項において、「生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるように工夫すること」と示されている。つまり、教師が一方的に課題を提示するのではなく、生徒が主体的に取り組みたくなるような仕掛けを加えながら、学習を価値付けする必要がある。

今後 ESD を視点に含めた学習活動を進めるに当たり、これまでの知識を活用しながら学習課題を自分ごととして考え、新たな価値を創造するといった学びのプロセスを意識させることが、生徒の主体的な学びに向かう力となりうると考える。これを「学び続ける生徒」の姿と捉え(図2)、その一連のプロセスを意識した授業改善を、持続可能な形で計画的に行うことが必要だと考える。よって本研究では、生徒たちが学習に興味・関心を持って主体的に取り組む態度と、学び続ける意欲を生み出す授業になるような課題提示や授業展開の工夫を図る。

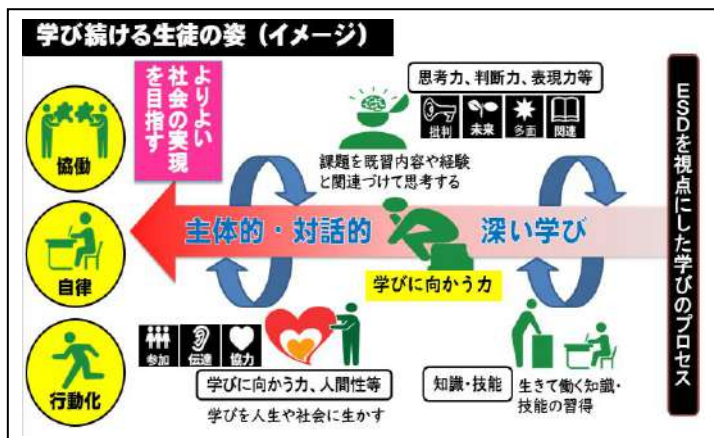


図2 「学び続ける生徒」の姿イメージ

2 「ESD for SDGs」を各教科で展開するためのアプローチ

(1) SDGs 学習のカリキュラムづくり

学校における SDGs や ESD の推進について、「総則」では ESD を学校のカリキュラムに位置づけるために、教科を横断的に組み立て、教育課程の編成を行うカリキュラム・マネジメントの必要性を述べている。田中・奈須・藤原(2019)は、学校でのカリキュラム・マネジメントの考え方に立って、ESD について①各教科で SDGs や ESD に関わる内容で学習できること(教科融合型)、②総合的な学習の時間で、環境や資源、ジェンダーなどの一つのテーマをじっくりと探究できること(教科統合型)、③学校行事や修学旅行、職業体験などに関連して SDGs についての社会の取り組みを学ぶことなど、学校や学年全体の活動でできること(教科超越型)という3つのカリキュラムづくりのアプローチを提唱した(図3)。

また、社会に開かれた教育課程の実現を目指すために、「これからの学校には地域社会と連携・協働した教育活動を充実させることがますます求められる」とも述べている。

そこで本研究では、「教科融合型」のアプローチに焦点を当て、地域の人的資源を活用した外国人との交流活動を取り入れた、英語科の単元をデザインし、実践することとした。

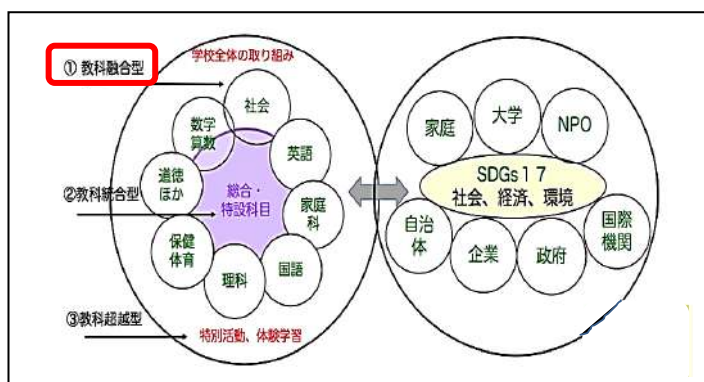


図3 3つのアプローチと社会に開かれた教育課程のイメージ(田中・奈須・藤原2019)(□は筆者)

(2) ESD で留意する3つの「つながり」とは

国研は、ESD の視点に立った学習指導を進める上で、以下の3つの「つながり」を授業設計・授業改善における留意点として明記している(図4)。教材や教科等の内容を学校・地域社会・世界な

どの空間的つながりと時間的つながりの視点から考えさせる『教材の「つながり」』、同じ年代や多様な立場・年代の人々とのかかわりの中で体験できる場を用意する『人の「つながり」』、関心を高め深めるだけでなく実生活や実社会における実践につなげていく『能力・態度の「つながり」』である。それらのつながりを授業の中で意図的に意識させることを積み重ねることで、持続可能な社会を構築するための実践力のある生徒を育てることができる。と考える。

なお本研究では、ESD の視点に立った単元をデザインするに当たり、ESD を特徴付ける3つの「つながり」が、学習過程のどの場面で、どのようにつながっているのかを指導計画に明記したい。



図4 ESDで留意する3つの「つながり」
(国研 2021 をもとに作成)

(3) ESD の視点に立った単元計画モデル

今回、「持続可能な社会の実現」に貢献できる人材を育成するためには、「ESD で重視する能力・態度」や、3つの「つながり」を意識した学習過程となるよう、既存の単元計画を見直す、「ESD の視点に立った単元計画モデル」を作成した(図5)。それを土台として、今後どの時期に、どの単元でESD やSDGs の目標と関連させることが可能なのかを吟味し、それぞれの教科の特性に応じて汎用させることが重要である。と考える。

さらに、各単元でどのような力を育成するのか、そのためにはどのような学習過程で学び、どのように評価するのかを明確にした「単元デザインシート」も合わせて作成し、生徒・教師の双方で共有し、単元の1時間目に一緒に確認してから授業をスタートしたい。

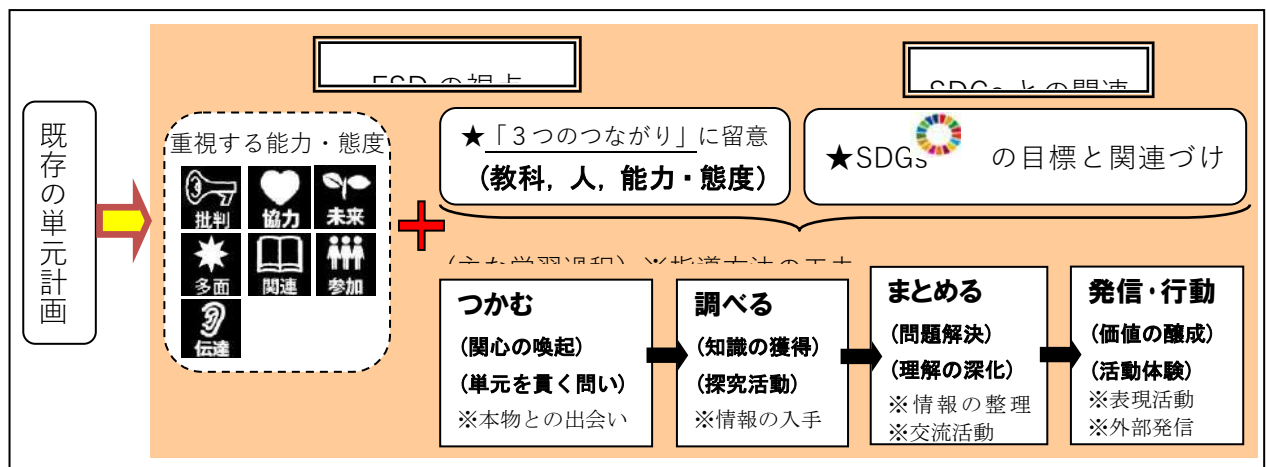


図5 ESD の視点に立った単元計画モデル

(4) ESD for SDGs の視点を取り入れた年間実践計画表(2 学年)の提案

本校ではESDの研究指定校として、学校全体でSDGs に対する気運が高まっており、学びの土壌が作られている。今回、教科指導の面においてESD for SDGs の授業づくりに挑戦したいと思えたのもそういう土壌があってこそと感じている。今後、職員の異動があっても継続的に取り組みやすい環境を整えていくことが大切だと考える。そこで、今年度本校2 学年の授業実践を一覧にした、年間実践計画表を作成した(表1)。各教科がどの時期に、どのような資質・能力を位置付けて取り組んでいるのかを一目で分かるように示したことで、職員間で共通理解を図ることができる。と考える。また、教科等横断的な学習プログラムの実施や、教科同士の内容や能力のつながりを生かした学習を考えることも可能になる。今回の検証では道徳と英語科の教材をつなげて実践を行う。年度末には次年度に向けて再度見直しを図っていくなど、学校の現状や生徒の実態に合わせて加筆・修正していきたい。

表1 ESD for SDGs 年間実践計画表(案)

ESD for SDGs 実践計画表(2学年)		南風原中学校	
目的	・ ESD で培う資質・能力の育成を目指す ①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的、総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力 ⑤他者と協力する態度 ⑥つながりを尊重する態度 ⑦進んで参加する態度		
	・ SDGs と ESD の視点に立った単元計画の作成		
実施月	単元名(教科名)	ESD で育成したい 資質・能力	SDGs との関連
4月	・ 4.28 沖縄「屈辱の日」特設授業(社会)	・ ESD①	・ Goal 11
5月	・ 世界の平和の絵文字(美術) ・ 5.15「沖縄本土復帰」特設授業(社会)	・ ESD①	・ 全ての Goal ・ Goal 11
6月	・ 6.23「慰霊の日」特設授業(社会)	・ ESD⑥	・ Goal 16
7月	・ 海と空-裡野の人々-(道徳) ・ Leave Only Footprints(英語)	・ ESD④,⑥ ・ ESD③	・ Goal 10,16 ・ Goal 14,15
8月			
9月	・ 9.18「しまくうばの日」特設授業(社会)	・ ESD⑥	・ Goal 11
10月	・ Work Experience(英語) ・ 「世界のウチナンチュの日」特設授業(社会) ・ 「メディアを比べよう」(国語)	職業 × SDGs 〔総合〕 ・ ESD③ ・ ESD④,⑥ ・ ESD	・ Goal 8 ・ Goal 11 ・ Goal 4
11月	・ 日本地理学習のまとめ(社会) ・ 「面白シーサーをつくろう」(美術) ・ 「生物の体のつくりとはたらき」第4章 刺激と反応(理科)	・ ESD②,③	・ 全ての Goal ・ Goal 12 ・ Goal 4
12月	・ よみがえれ、えりもの森(道徳) ・ 健康な生活と疾病の予防「喫煙の害と健康」(保健体育)	・ ESD④ ・ ESD②	・ Goal 15 ・ Goal 3,17
1月	・ Friendship beyond Time and Borders(英語) ・ モアイは語る-地球の未来(国語) ・ コトコの涙(道徳)	・ ESD④,⑦ ・ ESD③ ・ ESD③	・ Goal 17 ・ Goal 12,13,14,15 ・ Goal 3
2月	・ 避難所にて(道徳)	・ ESD⑤	・ Goal 11
3月	・ Live Life in True Harmony(英語)	・ ESD⑥	・ Goal 16

V 授業実践

1 生徒の実態把握

事前に SDGs に対する生徒の認知度、理解度、取組意向度を把握するために、沖縄県が作成した「SDG に係わる沖縄県民認知度調査」を参考にアンケートを作成し、実態調査を行った。「SDGs という言葉を知っている」と答えた生徒は 100%で、「何で知ったか」という問いには「学校」と答えた生徒が 8割にも上った。その結果から、SDGs を推進するにあたり学校教育は重要な役割を果たすと言える。

一方、今後の SDGs 実践意向に関する設問では、表 2 が示すように、約半数の生徒が具体的な行動意欲を持つまでには至っていないことがわかる。そこで本実践において、自己の学びが持続可能な社会の実現への貢献につながっているという実感と、前向きな行動意欲を引き出せるような指導の工夫を図る。

表 2 事前アンケート結果

SDGs であなたが取り組んでみたいことやアイデアなど(自由記述) 計 32 名	
特にない/わからない	15 名
具体的な取り組みやアイデアを回答	17 名

2 ESD の視点を取り入れた単元デザイン(英語科)

(1) 単元名 Reading2 Friendship beyond Time and Borders (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)

(2) 単元の目標

まとまりのある文を読んで概要や要点を捉えるとともに、読み取った内容を基に自分の意見や考えを、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。

(3) 単元について

① 教材観

本単元は、1890 年に起こったトルコ船エルトゥールル号の沈没事故とその救出や介抱に当たった和歌山県串本町の住民たちの様子、そしてイラン・イラク戦争下フセイン大統領によるイラン上空の航空機に対する無差別攻撃の開始宣言が出された際のトルコ機による日本人救出についての実話に基づいた話である。現在に至るまで長い間、友好関係にあるトルコと日本が絆を深めるきっかけ

となった2つのエピソードを読み取りながら、よりよい世界を築いていくためには国境を越えて同じ人間として尊重し、助け合うことの大切さについて考える機会を与える題材となっている。

また本単元を通して、SDGsの目標「17. パートナリーシップで目標を達成しよう」を視点に、生徒にとって身近なかかわりの中で国際理解・異文化共生について考えを深められるような自作の読み物教材へとつなげていきたい。

② 生徒観

本題材は『中学校道徳 あすを生きる2』の中に「海と空―極野の人々」という教材名で取り上げられており、生徒は本単元に入る前に道徳の授業でその内容について詳しく学習している。また道徳では国際人の一員として、「世界の人々と関わる時に大事なことは」というテーマで考え、議論を深めている。また、「外国人と自分との関わり」に関する事前アンケート結果では、「外国の人と関わる時に楽しみなことある」「どちらかと言えばある」と答えた生徒は62.9%と半数を超えていたが、「外国の人に自分から声をかけることができる」「どちらかと言えばできる」と答えた生徒は22.2%と低く、外国の人とのコミュニケーションに対して苦手意識を持っている生徒が多くいることがわかった。そこで、本単元を通して学ばせたい「国を越えた友好関係の築き方」をこれからの社会を生きていく生徒たちに、多文化共生の視点で自分ならどう考え、行動するか深めさせたい。

③ 指導観

中学校学習指導要領解説外国語編「(2) 読むこと」の領域の具体的な目標には、「ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする」とある。本単元は実話に基づいて書かれたものであるが、生徒は道徳の授業を通して内容をおおまかに知っており、教科横断的に取り組める効果的な題材である。そこで、今回は道徳と英語で扱う同一教材を通して、学んだ内容を相互に関連づけ、軸となる内容をさらに深化させた言語活動に取り組みたい。「読むこと」の指導においては、活動前に「読む視点」を提示しながら、段落ごとに内容に合う絵を選ぼう問題、時系列に沿った英文の並べ替え、質問からキーワードとなる語を拾い概要をまとめるなど、まとまりのある文章を読むための段階的指導の工夫を図る。

またこれまでの学習で身に付けた読む力をさらに高めるために、沖縄在住の外国人が生徒に向けて投稿した英文を読み、その内容に対する自分の思いや考えを簡単な語句や文を用いて英語で伝える活動を取り入れる。レリア（実物教材）を授業に取り入れることで、実在する相手をイメージしながらその国の文化、人、物、ことばへの興味をより一層引き出すことができ、生徒が主体的に学習に取り組む姿勢にもつながる。教材として使用する英文は教科書で扱っている文章構成を参考にし、生徒の学習レベルに合わせた内容とする。また、タブレット端末を生徒が自分の考えを伝えるツールとして活用することで、英語で発信する楽しさを知るとともに、リアルタイムに投稿されるクラスメイトのコメントを参考にしたり、次の学習に生かしたりするといった、自己調整を図る力も育成できるよう指導を工夫する。









④ ESD for SDGs を視点に入れた指導の工夫

本単元で交流を図りたい外国人の選定にあたっては、南風原町で働いている英語を母語としない人たちとする。現在、沖縄に住む外国人はアジアや中東諸国などからやってきた人たちが多くを占め、生徒にとっても暮らしの中で外国人と関わる機会もますます増えてくるであろう。そこで、生徒にとって身近な外国人との交流活動を、SDGsの目標「17. パートナリーシップで目標を達成しよう」と関連付け、偏見や思い込みを持たずに相手を理解し、これからの社会において重要となる多文化共生に対して自分との関わりの中で考えられるような指導の工夫に取り組む。また生徒がさまざまな活動を通して、多様な意見に触れ、互いの考えを共有しながら新たな価値に気づかせ、深めるなど、「多面的、総合的に考える力」を育めるよう留意する。さらに、与えられた課題に取り組ませながら言語活動に「進んで参加する態度」を身に付けさせることで、持続可能な社会の実現を目指して主体的に学び続ける生徒の育成を目指す。

(4) 評価規準（「読むこと」）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	これまでに学習した表現の意味や働きを基に、英文の内容を読み取る技能を身に付けている。	まとまりのある英文を読み、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要や要点を捉えている。	まとまりのある英文を読み、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要や要点を捉えようとしている。
評価方法	定期テスト	定期テスト	活動観察・振り返りシート

(5) ESD 単元デザインシート（一部）

単元を貫く問い (Big Question)		関連する SDGs	17 			
「国を超えた友好関係を築くために大事なことは？」						
ESD で育みたい能力・態度（本単元で重視するものに○）						
 批判的に考える	 未来を予想	 多面的総合的	 コミュニケーション	 他者と協力	 つながりを尊重	 進んで参加
		○				○
ESD の 3 つのつながりに留意する場面設定						
・教材の「つながり」	社会科(地理的分野)、中学校 2 年道徳「海と空―樫野の人々」					
・人の「つながり」	学習者同士 (ペア・グループ活動)、沖縄に住む外国の人 (交流活動)					
・能力・態度の「つながり」	これからの生き方や行動につなげる					
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストの概要や要点を読み取る長文問題で評価する。〈知・技〉〈思・判・表〉 ワークシート記述や課題への取り組む態度で評価する。〈主体的〉 					

(6) 単元の指導と評価計画

時	ねらい (■) / 主な言語活動 (数字) / SDGs に関連 (★)・ESD の視点 [] / 指導に生かす評価 (○)	知	思	態
1	<p>Introduction: 道徳で学んだトルコと日本の友好関係の歴史について写真などを用いて簡単に学習を振り返る。</p> <p>■単元で身に付けたい力や単元目標を理解する。</p> <p>【Big Question】国を超えた友好関係を築くために大事なことは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある文を読んで概要や要点をつかむことができる。 ・読み取った内容をもとに自分の意見や考えを伝えることができる。 <p>■本文の概要をおおまかに捉え、伝え合うことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 帯活動：新出単語の確認（全体→ペア練習） 2 本時のめあてを確認する。 3 教科書本文を読み、概要を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ①担当する段落の概要を個人でおおまかに読み取る。読む視点①時を表す語に着目する。 ②グループで概要を伝え合い、根拠や理由を示しながら各段落と絵を合わせる。【進んで参加する態度】 ③全体で答えを確認する。 4 まとめ、振り返り 	○		
2	<p>■本文を時の流れに沿って整理し、概要をおおまかに捉える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 帯活動：新出単語の確認（ペア練習） 2 本時のめあてを確認する。 3 教科書本文を読み、概要を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ①エルトゥールル号のエピソードについて思い出させる。 ②段落③～⑤の内容を 1 文ずつ時系列に沿って並び替える。読む視点②接続詞に着目する。 ・ペアで読んで並び替える。【進んで参加する態度】 ※中間指導 ・グループで答えを確認し合う。【進んで参加する態度】 ③全体で答えを確認する。 ④★樫野や宮古島の人々の行動や思いについて考える。【多面的、総合的に考える力】 4 本文を音読する。 5 まとめ、振り返り 	○		
3	<p>■本文や SNS に投稿された記事のおおまかな内容を捉え、その内容についての自分の考えをコメントする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 帯活動：新出単語の確認（ペア練習） 2 本時のめあてを確認する。 3 教科書本文を読み、概要を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ①段落①、②の概要を表にまとめる。（個人→グループ）【進んで参加する態度】 読む視点：①、②+③キーワードとなる語に着目する。 ②全体で確認する。 4 本文を音読する。 5 沖縄に住む外国人が SNS に投稿した英文を読み、その概要を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ①個人で読む。読む視点：①、②+③キーワードとなる語に着目する。 ②概要を表にまとめる。※概要がつかめているか中間指導を入れる ③★自分の共通点や印象に残ったことをグループで交流する。【多面的、総合的に考える力】 6 自分の伝えたいことをタブレット端末を使ってコメントする。【進んで参加する態度】 7 まとめ、振り返り 		○	○

4	<p>■本文や SNS に投稿された記事のおおまかな内容を捉え、その内容をもとに自分の考えを深める。</p> <p>1 帯活動：新出単語の確認（ペア練習）</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>3 教科書本文を読み、要点を捉える。</p> <p>①これまでの内容を Q&A で振り返る。</p> <p>②段落⑥、⑦の筆者が伝えたい要点となる文がどれか個人で読み、考える。 読む視点④段落の始めと終わりの文に着目する。 ※中間指導を入れる</p> <p>③要点となる文の根拠を示しながらグループで考える。</p> <p>④全体で確認する。 【進んで参加する態度】</p> <p>4 沖縄に住む外国人が SNS に投稿した英文を読み、その概要や要点を捉える。</p> <p>①個人で読む。 読む視点：①、②、③、④</p> <p>②概要を表にまとめる。 ※中間指導を入れる</p> <p>③印象に残ったことや考えたことをグループで交流する。【多面的、総合的に考える力】</p> <p>④★これから外国の人とかかわるときに大事にしたいことを考える。 (個人で考えた後グループで交流する) 【多面的、総合的に考える力】</p> <p>⑤★今日の学びの中で、SDGs との関連するものに気づかせる。</p> <p>5 まとめ、振り返り (宿題) 自分の伝えたいことをタブレット端末を使ってコメントする。 【進んで参加する態度】</p>	○	○
5	<p>■「国を超えた友好関係を築くために大事なことは何か？」考えを伝え合う。</p> <p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>2 教科書本文を通して音読する。</p> <p>3 本文の復習に取り組む (3rd Stage の問題)</p> <p>4 Google Classroom を開き、友達のよい表現の紹介や返信の確認など、学びを振り返る。【多面的、総合的に考える力】</p> <p>5 単元のまとめ</p> <p>①★Big Question に対する今の自分の考えに根拠を添えて書き、意見の交流を図る。</p> <p>②★本単元で学んだことが SDGs のどの目標と関連があったか各自で考えさせる。 (個人で考えた後グループで交流する) 【多面的、総合的に考える力】</p> <p>6 本単元の振り返り：この単元を通して身についた力を意識して振り返りシートに書く。</p>	○	○

(7) 本時の指導 (第 4 時 / 全 5 時間)

① 本時のねらい

本文を読んで要点を捉えるとともに、SNS に投稿された記事を読み、その内容をもとにクラスメイトと交流し、自分の考えを深めることができる。

② 評価方法



授業での活動観察や宿題、振り返りシートを活用して、「主体的に学習に取り組む態度」につながる側面を見取る。「思考・判断・表現」は定期テストの問題で見取る。







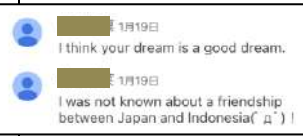
③ 検証の視点

視点 1 生徒が他者の意見や考えに共感するとともに、多面的な視点を持って、学んできたことについて自らの考えを深められる場面設定の工夫があったか。【多面的、総合的に考える力】

視点 2 多様な活動形態を通して、生徒が互いに協力しながら、主体的に考え、取り組むことができていたか。【進んで参加する態度】

④ 本時の展開 (分散登校による対面+オンラインのハイブリッド授業)

	学習活動	・教師の支援・指導上の留意点 ○生徒の反応	検証の視点 ★ESD との関連
導入 5 分	<p>1 Greeting</p> <p>2 Warm-up：新出単語の確認 (全体)</p> <p>3 めあての提示</p> <p>SNS に投稿された記事を読み、おおまかな内容をとらえ、その内容について自分の考えを伝え合うことができる。</p>	<p>本時で扱う単語の読み方と意味を確認</p>	
	<p>4 Reading①</p> <p>①これまでの内容を Q&A で振り返る。</p> <p>②段落⑥、⑦で筆者が伝えたい要点となる文を探す。</p> <p>※「読む視点」の確認</p> <p>読む視点④段落の始めと終わりの文に着目する。</p> <p>(個人で考える→グループで答え合わせ)</p> <p>⑤全体で答えを確認する</p>	<p>・前時の"Why Turkish planes?"の答えを本時で見つけることを確認する。</p> <p>ポイントを押さえる</p> <p>中間指導「事実」と「考え」のどちらを述べられている文か再考させる。</p>	<p>視点 2</p> <p>参加</p> <p>【進んで参加する態度】</p> <p>個人で考える時間を大切にする</p> <p>仲間と協働して考える</p> 

<p>展開 41分</p>	<p>⑥「よりよい世界を創るために大切なこと」について筆者の考えから、キーワードとなる語を探す。</p> <p>5 Reading② (目的や場面の提示)</p> <p>沖縄に住むインドネシア人のミラさんが SNS に投稿した英文を読んで、読み取った概要を表にまとめてみよう。そしてあなたが伝えたいことを英語でコメントしてみよう。 ※「読む視点①～③」を確認する。</p> <p>Round1 概要を表にまとめる。 ①個人で読む。 ②全体で答えを確認する。</p> <p>Round2 読んだことをもとに、自分との共通点や印象に残ったこと、これまでの投稿を読んで考えたことについて自分の考えをまとめる。(個人→グループで交流)</p> <p>Round3 これから外国の人とかかわるときに大事にしたいことを選択肢から選ぶ。(個人→ペアで交流→全体で共有)</p> <p>※教科書の内容やミラさんの投稿を読んで、それぞれが SDGs で言えばどのゴールに関係しているか考える</p>	<p>・大事なキーワードが目に入るように板書に下線を引く。</p> <p>friendship, outside our borders, help, each other</p> <p>筆者の考えを知り、自分だったらどう答えるか次時へつなげる。</p> <p>・活動の目的や場面を捉えさせるとともに、これまでの「読む視点」を参考にして読む。</p> <p>中間指導 概要となる部分を教師が音読して聞かせる。 ○アニメとマンガが好き。 ○インドネシアと日本の友好を築きたいという考えがすごい。 ○将来の夢ややりたいことをしっかり考えている。</p> <p>ミラさんと自分との共通点を通して、地域に住む外国の人を身近な存在に感じさせたい。</p> <p>①Greeting ②Learn their languages ③Have an interest ④Search the Internet about their culture ⑤Try to start conversations (Japanese OK) ⑥Nice Smile ⑦Use Easy Simple Japanese</p> <p>Let's Action!</p> <p>「自分ごと」にする瞬間</p> <p>SDGs の視点 生徒の発言を拾いながら SDGs アイコンを黒板に貼る。</p> <p>学んだことが SDGs にもつながっていると気づかせる。</p>	<p>視点1  多面 [多面的、総合的に考える力]</p> <p>★人の「つながり」 沖縄に住む外国人との交流</p> <p>視点2  参加 [進んで参加する態度]</p> <p>視点1  多面 [多面的、総合的に考える力]</p>  <p>身近に住む外国人のミラさんを通して、Big Question の答えに迫っていく。</p>  <p>まずは自分にできることを考えて、他の生徒の多様な考え方に触れる。</p>
<p>まとめ 4分</p>	<p>6 Homework ミラさんの投稿に対して英語でコメントする。(タブレット端末使用)</p> <p>7 本時のまとめ・振り返りシート記入 (振り返りの視点) ○教科書の内容やミラさんの投稿文をおおまかに読みとるために工夫したこと ○考えを伝え合うことを通して、新たな気づきなど</p>	<p>・今日の学びを生かしてコメントしてみるように促す。</p> <p>・振り返りの視点を確認するとともに、ESD で身に付けたい力についても自己評価させる。</p> 	<p>投稿された生徒コメント</p>  <p>1月19日 I think your dream is a good dream.</p> <p>1月19日 I was not known about a friendship between Japan and Indonesia!</p>

VI 実践の結果と考察

1 「持続可能な社会の実現」を目指して学び続ける生徒の姿

(1) ESD for SDGs の視点を取り入れた英語科の授業実践から

ESD を実践する上で、めあてとともに「付けたい力」(検証授業では「多面的・総合的に考える力」、「進んで取り組む態度」の2つの力に焦点化する)の明示と、学習過程のどの場面でもどのようにそれらの力を高めさせる活動を位置づけたら効果的かを意識して検証計画を立てた。まず、道徳の教材「海と空-檜野の人々-」とのつながりを意識した単元を貫く問い (Big Question) を設定し、授

業を追う毎にその問いに対し様々な立場や見方を変えて考えを深めるなど、多面的・総合的に迫れるような言語活動を取り入れた。

資料2は単元の第1時と第5時の単元を貫く問い（Big Question）の記述を示したものである。生徒Aは、第5時では教科書で学んだトルコと日本の友好関係の歴史や身近な外国人との交流活動を関連付けて、他国の人との接し方について日本人としての良さに誇りを持つことなどの視点を含めた、考え方の深化に至ったことが窺える。また生徒Bは、「言葉で伝えること」としていた最初の考えが、「多面的・総合的に考える」活動を通して、「言葉が伝わらなくとも」という

Big Question 国を越えた友好関係を築くために、大事なことは？	第1時	コミュニケーション、目かけ合い 反応とかでもOKだと思う。	生徒A
	第5時	ちゃんと相手にきょうみをもったり、自分がされてうれしいことも人にしたりする。そして、こういった歴史？昔の出来事について書いていても、大事な所はなおして、 <u>良い所はほめて友達関係をづくりたい</u>	
Big Question 国を越えた友好関係を築くために、大事なことは？	第1時	言葉で伝えること 気持ち	生徒B
	第5時	<u>言葉が伝わらなくてもどの国に対しても優しい気持ちを持って行動でそれを表すことが大事だと思う。</u>	

資料2 生徒A、BのBig Questionへの記述

既存の価値観の見直しによる新たな価値の気づきにつながったと推察できる。

資料3は第3時と第4時で地域に住む外国人のSNS投稿文を読み、宿題として生徒がタブレット端末を用いて相手にコメント(返信)したものである。学んだことに対する自分なりの考えを持たせて自由に書かせてみると、ほとんどの生徒が生徒C、Dのように相手に共感したり、尊重するようなコメントを既習事項を用いて表現できた。また、英語で上手く伝えられない場合は生徒Eのように優しい日本語を用いて何とか自分の思いを伝えようとするなど、主体的に学習に取り組む態度（「進んで取り組む態度」）に向上が見られた。そして、生徒がオンライン上でいつでもクラスメイトのコメントを閲覧できるようにし、参考になる表現の共有といった、この活動に対する全体へのフィードバックは第5時で行った。また、生徒Fのような質問に対しては、教師を仲介して相手からの返信を紹介した。実際に地域に住む外国人とつながるコミュニケーション活動を通して、これまでの学びが生かされ、活動に価値が生まれたと考えられる。



資料3 Google Classroomに投稿された生徒のコメントの一部

(2) ESDを取り入れた学習の相乗効果と学習者の変容

① 振り返りシートの考察より

資料4は生徒GとHの単元終了後の振り返りを示したものである。これまでの実践をふり返ってみると、めあてに対して何が身についたかという英語の面における記述だけで満足し、言語材料や表現の定着のみを重視し過ぎていたと感じる。しかし本単元では、ESDの視点を取り入れた授業づくりを実践したことで、英語科の命題とも言えるグローバルな人材育成の基盤となる資質や価値観の醸成においても同時に育むことができたことと捉えることができる。このことから、授業を教科の特性に応じて生活や社会と結び付けることで、教科としてのめあてを達成するだけでなく、学びの質を高めることができる。このことから、授業を教科の特性に応じて生活や社会と結び付けることで、教科としてのめあてを達成するだけでなく、学びの質を高めることができる。このことから、授業を教科の特性に応じて生活や社会と結び付けることで、教科としてのめあてを達成するだけでなく、学びの質を高めることができる。

生徒G	・この単元では長文のキーワードとなる部分の見つけ方を理解できた。外国人には機会があるときに興味を持って話しかけたいと思った。
生徒H	・大事な要点を見つけたりするポイントをつかめたと思う。英語以外にも色々学べた。

資料4 生徒F、Gの単元終了後の振り返り

また、本単元を通して生徒自身に身に付けさせたい資質・能力を授業の中で意識させるために、その項目における自己評価も振り返りシートに記入させた。評価を可視化することで、振り返りシートがESDの視点で授業を分析・改善し、指導に生かす評価材料として有効になると感じた。

一方、生徒に身に付けさせたい資質・能力が育まれたかを測るには一単元のみでは難しく、長期的な視点に立って、生徒の変化やその後の成長まで見逃さずに、言語化して評価するなど、教師が評価の捉え方を広げるようにすることも必要であると考えた。

② 事後アンケートの考察より

本研究においてSDGs達成を目指した学習を進めるにあたり、学習内容を自分の生活と結び付けて考えたりしながら「自分ごと」にするための問いや「つながり」を意識した活動を設ける工夫を行った。

図6は、SDGsの目標「17. パートナリシップで目標を達成しよう」につながる多文化共生に関するアンケート結果である。「外国の人に自分から話しかけることができますか、また話しかけたいと思いますか」の設問に、「できる」「どちらかと言えばできる」と肯定的な回答をした生徒が検証前は24%であったが、検証後は59%と35ポイントの増加が見られ、他者と積極的に向き合い、コミュニケーションを行う行動意欲において変容が見られた。

図7のアンケート「外国の人たちと共に暮らす（共生する）とよいことがあると思いますか。」の設問に対して、「ある」「どちらかと言えばある」と肯定的に回答した生徒は92%と高いことから、授業を重ねるごとに「国を越えた友好関係」について、地域に暮らす外国の人たちと自分とのかかわりに結び付けて前向きに考えられたと捉える。さらに図8の「『外国の人たちと関わる時に大切にしたいこと』をこれから実践したいと思いませんか」という設問に「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した生徒が92%と、授業で学んだことや身に付けた態度を実生活において行動に移したいという意欲が高まったと推察される。このことから、教科書の内容をSDGsと関連付けて学習することで、自ら学び続ける生徒の素地を育むことができたと考えた。

本研究を通して、英語の教科書自体が、実はそのほとんどがSDGsに関わるテーマとなっていることに気づいた。ESDとしてのねらいと英語のねらいの共存は、教材によっては難しいこともあるが、何かしら接点となるものを見つけることで、特別な授業をするのではなく普段の取り組みに応用できると感じた。

3 検証授業のまとめ（本研究を実践する上で、気づき、実感したこと）

(1) 地域の課題と教材のつながりを意識した「問い」の立て方

学校教育の中でSDGsに取り組む上で大事なことは、正解のない学びを創っていくことだと考える。

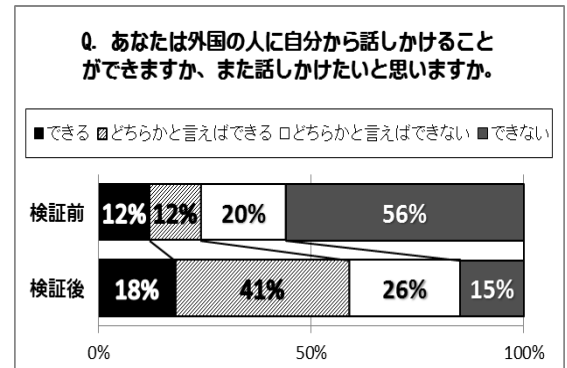


図6 多文化共生に関するアンケート①

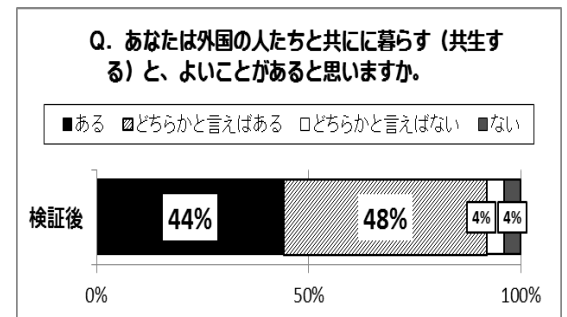


図7 多文化共生に関するアンケート②

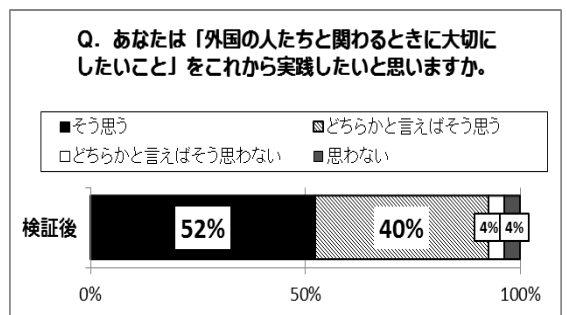


図8 多文化共生に関するアンケート③

教科書で学んだことを、自分の地域社会など身近なことにつなげ、「問い」を立てることで、身に付けた知識や技能の活用能力がより高まることを実感した。今回の検証では、地域の実情や課題から教師が予め「単元を貫く問い」を設定したが、教材を学び進めていく中で、生徒とともに「問い」を考へることもできたと感じた。単元の大きな枠組みは決まっていますが、教師が柔軟性を持たせることで、生徒の主体的な学びにつながる意欲を高められると考える。

(2) 教科のねらいと ESD としてのねらいの共存するための指導のバランス

ESD の視点に立った授業を英語科で行うにあたり、教科のめあての達成も目指しながら、ESD で付けた力の育成をねらう活動とのバランスが大事であると感じた。これまでの取り組みに新たな視点を加えて活動させるだけでは、生徒に十分思考させる時間の確保が難しいこともあった。教科として教えるべき内容の質を落とさず、必要な活動を精選することが大事であると感じる。

Ⅶ 研究のまとめ

1 研究の成果

- (1) 学校全体での ESD 推進に向けて、ESD for SDGs の視点で見直した単元計画モデルや、ESD 単元デザインシート、教師間で共通理解し、実践するための年間実践計画表を作成することができた。
- (2) 道徳と英語科の教材を関連付け、展開したことで、生徒は学びのつながりを意識しながら既存の価値を見直し、グローバルな人材育成の基盤となる資質や価値観を醸成する手がかりを得ることができた。
- (3) 教科書の内容を ESD for SDGs の視点で学習することで、生徒は授業で学んだことや身に付けた態度を実生活において行動に移す意欲を高めることができた。

2 今後の課題

- (1) ESD で身に付けさせたい資質・能力への評価については、長期的な視点に立って生徒の変化や成長を見逃さず、言語化して評価するなど、教師が評価の捉え方を広げていく必要がある。
- (2) 本研究で示した ESD for SDGs の視点を、本校が目指す生徒像に照らし合わせて、ESD で育てたい能力を整理し、「持続可能な社会の担い手」を育成するカリキュラムづくりに生かしていきたい。
- (3) 各教科・領域等の学びを横断的に関連付ける授業づくりの工夫を、学校全体の ESD の取り組みで充実させる必要がある。

〈主な参考文献〉

- | | | | |
|-----------|---|--------|---------------|
| 開発教育協会 | 『SDGs 学習のつくりかた-開発教育実践ハンドブックⅡ』 | 開発教育協会 | 2021年 |
| 田中治彦(他編) | 『SDGs カリキュラムの創造-ESD から広がる持続可能な未来』 | 学文社 | 2019年 |
| 及川幸彦 | 『中等教育資料(持続可能な社会づくりに資する学校教育)』 | 学事出版 | 2018年 |
| 文部科学省 | 『中学校学習指導要領解説 総則編』 | 東洋館出版社 | 2018年 |
| 文部科学省 | 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 | 開隆堂 | 2018年 |
| 国立教育政策研究所 | 『学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究[最終報告書]』 | | |
| | https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_chuukan.pdf | | 2021年11月2日取得 |
| 国立教育政策研究所 | 『ESD の学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み』 | | |
| | https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf | | 2021年11月2日取得 |
| 藤原 孝章 | 『新学習指導要領を踏まえた国際理解教育・開発教育の授業づくりのポイント』 | | |
| | https://www.jica.go.jp/hiroba/news/notice/2020/jhqv8b000006jf27-att/jhqv8b000006jf6r.pdf | | 2021年10月18日取得 |